



シロツメグサ



スズメノヤリ



エノコログサ
緑色の穂



キンエノコロ
金色の穂



アキエノコログサ
長くたれる穂

エノコログサのなかま

シロツメグサの花を輪に編み、リースにして、首かざりや花かんむりを作ったことがありますか？ シロツメグサは、四つ葉のクローバーさがしもできて、楽しみの多い草ですね。

リースはシロツメグサでなくても、他の草でも作ることができます。編み方はシロツメグサと同じです。いろいろな草でリースを作り、楽しみましょう。

リースを作りやすいのは、次の形や性質をもつ草です。①花や穂が大きく、頭でっかちに見える。②穂は若く、まだ実がふくらんでいない（熟したものは、かわくと実がぼろぼろ落ちます）。③花や穂のくきが細長く、葉がついてない。④くきは、しなやかでぽきっと折れにくい。

春はスズメノヤリ、夏から秋はねこじゃらしともよばれるエノコログサのなかまがリースにぴったりです。公園や道ばたで他にもよさそうな草を見つけたら、その場で編んでみると、リースに向いているかどうかわかります。作り方は、一番下を見てください。

リース作りには、ビニール針金2つ（食品のふくろの口をしぼる時に使われているもの。最後にくきををしぼる）、ハサミ（長いくきを切りそろえる）、麻ひも（リースをつるす）があると便利です。

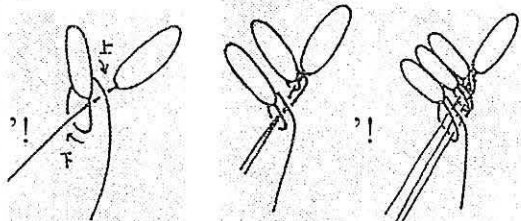
スズメノヤリやエノコログサのリースは、かわいても形や色はあまり変わらず、長持ちします。最初や途中に他の草を入れると、アクセントになります。ただし、花びらのうすい草の多くは、かわくとしおれるので、長持ちさせたい時はやめた方がいいでしょう。また、半日～2日ほど日かげで干し、しなびたもので編むとかわいてもくずれにくく、きれいなリースに仕上がります。

(2010年8月 坂井奈緒子)

作り方

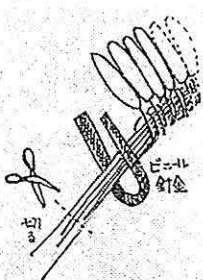
編む草は、1本でも2本いっしょでもよい。

1



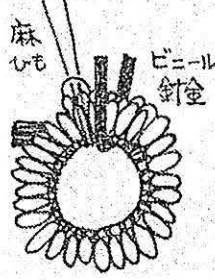
輪にできる長さまでどんどん編む。

2



ビニール針金でまとめ、ねじりとめる。長いくきを切る。

3



輪にし、別のビニール針金でねじりとめる。麻ひもをつけると、できあがり。

(草のリースは、当館ボランティアの木原さんに教わりました。)